

笑ったら今度は僕が許さんぞ

家に帰ると、京太と幹夫がどなり合っていた。

横で おばあちゃんとお母ちゃんが
黙って いやな顔して 見ていた。

京太と幹夫は ささいな、ちっぼけな事に
腹をたて、どなり合う、
「けたた」とか「けてない」とか 言って。

もし、京太と幹夫が 同じ年なら 話もわかる。

しかし、京太は 中二、幹夫は 小学二年。
お互いに、どなり合う事、考えられる事ではない。

もし、京太が幹夫に説教の調子で話しているのなら、
なぜ、幹夫が、京太にどなり返そう。

京太本人は、弟に説教しているつもりかも知れないが、
それは説教でなく、「大きなお世話、押しつけ」の様だ。

幹夫と京太の態度を見ると、
京太は幹夫に対して 心から腹をたてて どなっている。

また、それを当然の様に 京太は思っている。

幹夫も そう同じに 思っている。
これは、二人とも、対等、同レベルの口論。

それは、京太が、「幹夫は自分より年少者だ。」
とは、頭で はっきりと 考え込んでいないから、
意識していないから、起こることだ。